



旭丘小だより

練馬区立旭丘小学校
学校だより 6月号

平成29年5月31日発行

発行責任者：野田 豊



ふれあい月間に寄せて

校長 野田 豊

(6年 車山山頂にて) アジサイの葉がひと雨ごとに色濃くなり、花のつぼみが淡く色付く季節となりました。校庭の木々の青葉若葉も目に鮮やかで、元気よく天に伸びています。先日、練馬区の小学校のトップを飾って本校の6年生武石移動教室が実施されました。好天にも恵まれ、車山では、彼方に見える富士山を眺め、気持ちのよい初夏の風に吹かれて所々残雪の残る山道を山頂目指してハイキングしました。また、博物館の見学や火起し体験等の学習、キャンプファイヤーやバスレクのお楽しみ等々、とても充実した思い出に残る3泊4日の移動教室になりました。中でも、6年生の子供たちの挨拶の言葉や集団行動がしっかりと実行できていたことが何よりもうれしく思いました。共に生活する仲間や宿泊や見学でお世話になる方々への感謝の気持ちや心遣いを言葉や行動で示すことができていたことに最高学年にふさわしい成長を感じました。

☆

さて、今月はふれあい月間です。年度当初にもお伝えしたところですが、本校の学校経営のテーマは「笑顔あふれる学校」の具現です。子供たちが安心して笑顔で学校に通えるためには、いじめのない学校、起こったいじめを解消できる学校であることが何より重要だと考えます。

言葉や態度で意地悪をされたり、仲間はすれにされたりして受けた心の傷は、どれほどの痛みか本人にしか分かりません。そして、それが毎日のように繰り返し行われたとしたら、耐えがたい苦しみであることは想像に難くありません。私たち教職員は、いじめはどの学校にも起こりうるものであるとの認識をもち、日々成長、変化する子供たちを注意深く見守り、いじめの芽を早期に発見し摘み取ることを心がけています。そのためには、子供たちの表情の小さな陰りやいじめや差別につながる言動を見逃さず、ご家庭と力強く連携して、迅速に指導、対応するスピード感と強い使命感がなければならないと考えています。

☆

いじめ問題の解決には、私たち周囲の大人の介入とともに子供たち自身の人間的な成長も必要です。様々な個性をもち、異なった環境に育った子供たちが、一つの集団を作り学校という社会で成長を遂げていく過程では、楽しく過ごせる時間だけでなく、相手に違和感を感じたり、意見や思いがぶつかり合ったりして、心ない言葉や攻撃的な態度が思わず出てしまうこともあります。そうした現実の中で、いかに気持ちを切り替え、折り合いを付けて生きていくかを学びとらせることも大事なことだと思います。そのためには、心の中に生じた相手に対する違和感や憤りのような負の感情や相手の言動から受けた心のダメージといったものを言葉に表出して、その場の状況を改善したり、問題を解決したりすることができる対話スキルを身に付けさせていくことが重要であると考えます。このことを踏まえ、対話スキルの習得のための授業を行うと共に、日々の授業や教育活動の全てにおいて、人の話を受容的に黙って聞く、自分の気持ちや考えを相手に分かるように伝える、友達の良さや頑張りに気づき賞賛する、といったごくあたり前の行為を意図的に粛々と積み上げていく営みを大切にしていきたいと思えます。